

図D.2: 健やか親子21]取組データベースの分析結果 多機関協働)

	事業数	%
提案者 行政	447	90
協力機関		
教育機関	429	86 *
保健センター 保健所	167	33 *
地域	142	28 *
医療機関	128	26 *
思春期以外の地域	9	2 *

*: 思春期における性]を対象とした499事業を分母として計算

協働機関数

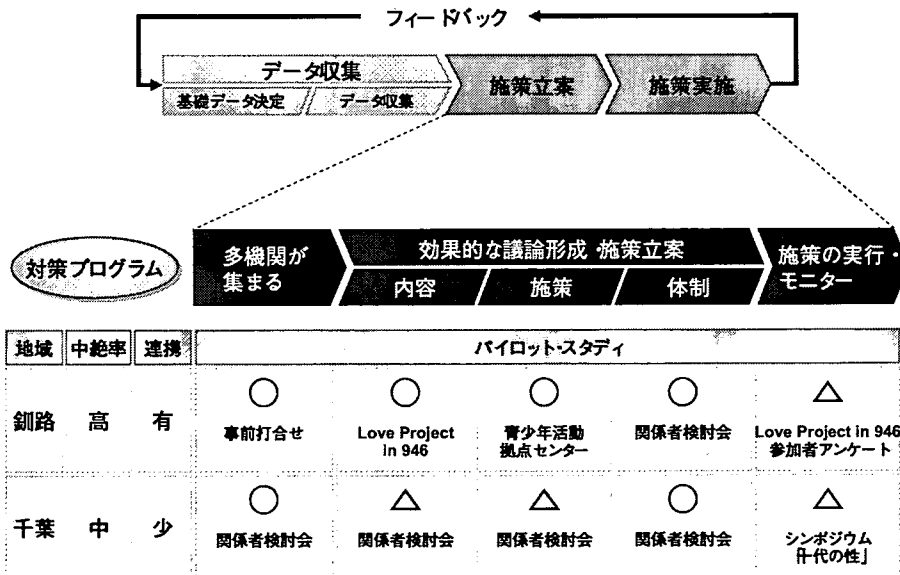
N = 499

(%)

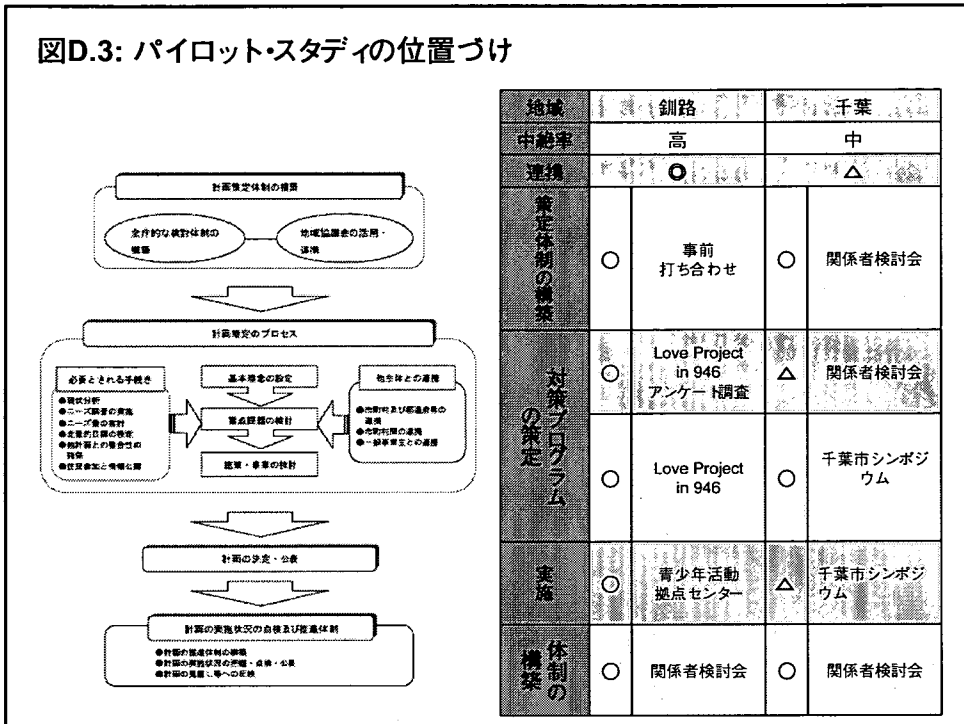
- 5機関
- 4機関
- ▨ 3機関
- 2機関
- 1機関



地域主体での施策立案・実施体制の整備 (平成19年度)



図D.3: パイロット・スタディの位置づけ



図D.4 : Love Project in 946 の開催結果

日時 2007年7月29日10:00~12:00

場所 銚路市観光国際交流センター 1Fホール

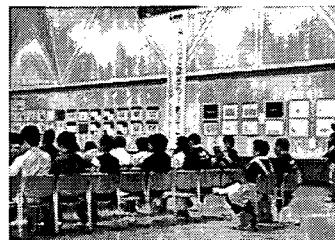
来場者 約190名

出た意見(まとめ)

時間的余裕について
 イベントや課外活動の推進の必要性
 カップルの時間の過ごし方の問題

家族の性の意識
 親子のコミュニケーションの重要性
 親への教育の必要性

デート性交渉場所について
 まちづくりレベルでの対策の必要性
 女性側の抑止力の重要性



図D.5: 青少年活動拠点センターの展示結果

来場者数 :107名

パネル展示:

- ・ ボランティアネットワークチャレンジ隊
- ・ 釧路蝦夷太鼓保存会
- ・ くしろ夢の森クラブ
- ・ 命を大切にする会
- ・ くしろワンニャンボランティア
- ・ 釧路演劇みたい会
- ・ 釧路市民活動センターくしろ・わっと

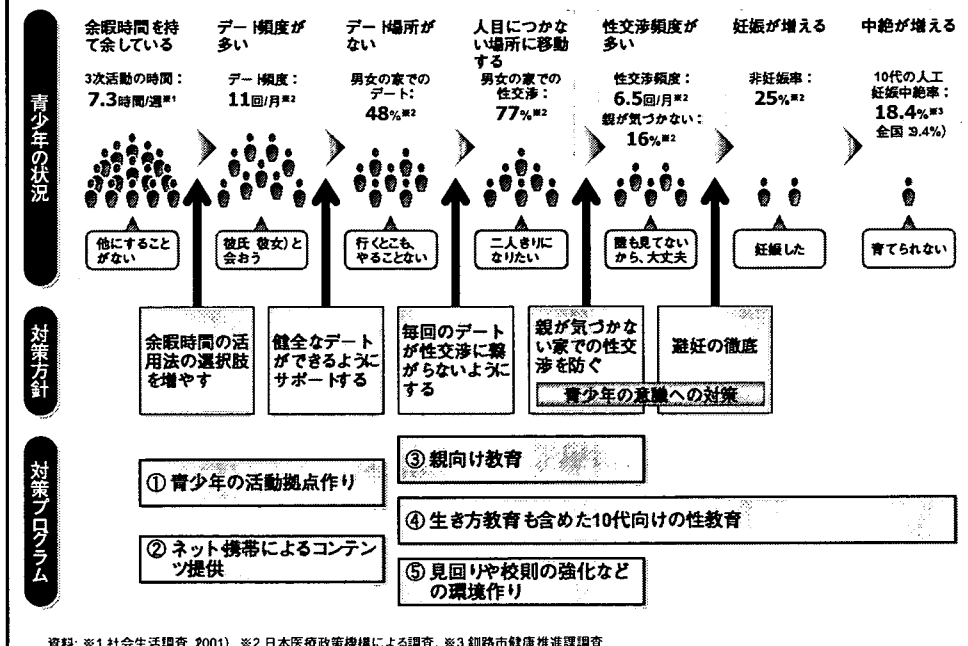


パンフレット展示:

- ・ NPO法人馬木葉クラブ
- ・ 北海道NPOサポートセンター
- ・ 国際民族文化祭 ミンタラ 実行委員会
- ・ NPO法人シーズネット

17

図D.6:地域特性に基づく施策立案 地方郊外)



図D.7:施策を実行するための役割分担 (地方郊外)

対策プログラム		① 青少年の課外活動推進 ② ネット携帯によるコンテンツ提供	③ 親向け教育	④ 10代向け性教育 (生き方教育含む)	⑤ 見回りや校則強化などの環境作り	
協働関係	自治体	・ ネットでの情報発信 ・ 検討会の開催	・ 入学式における保護者向け講演会の実施 ・ 市P連向け講演会 ・ 性の辞典」配布拡大 ・ メディアへ情報発信依頼	・ 小・中学校におけるモデル授業の実施 ・ 教師向け性教育講習の実施 ・ 性の辞典」配布拡大	・ 警察との連携調整	
	教育関係	教育委員会	・ 課外活動のニーズに関するアンケートの実施 ・ 検討会への参加	・ 入学式における保護者向け講演会の設定	・ 教師向け性教育講習の必修化 ・ モデル授業内容検討	
		学校	・ アンケート協力 ・ 検討会への参加	・ 入学式における保護者向け講演会の実施協力 ・ 性の辞典」配布協力	・ モデル授業協力 ・ 性の辞典」配布協力 ・ 性教育講習への参加	・ 指導の強化
	医療機関	市民団体・NPO等	・ 課外活動の提供 ・ 検討会への参加	・ 講演会の依頼 ・ 性の辞典」配布協力	・ 性の辞典」配布協力	
		医療機関・保健所	・ 情報の提供	・ 講師派遣による講演会協力	・ 授業・講習への協力	
	市民関係	市民団体・NPO	・ 情報の提供 ・ イベントの実施 ・ 検討会への参加	・ 性の辞典」配布協力	・ 授業・講習への協力 ・ 性の辞典」配布協力	
		政治家	・ 検討会への参加			
	地域関係	地域団体・NPO等	・ 活動拠点の提供(わっぴ) ・ ネット上を含めた活動情報の提供 ・ イベントの実施 ・ 検討会への参加	・ イベントの実施 ・ 性の辞典」配布協力	・ イベントの実施 ・ 性の辞典」配布協力	・ 市民団体による見回り
		その他	・ メディア ・ その他	・ 親向け情報の発信		・ 警察の協力

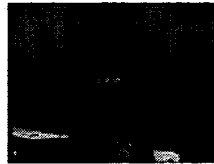
図D.8: シンポジウム (10代の性)の開催結果

日時 2007年12月16日10:00~16:00
 場所 ホテルプラザ菜の花大会議室他
 来場者 約70名



分科会内容概略

分科会① 多機関協働によるアクションプランとともに各自が明日からできることを確認



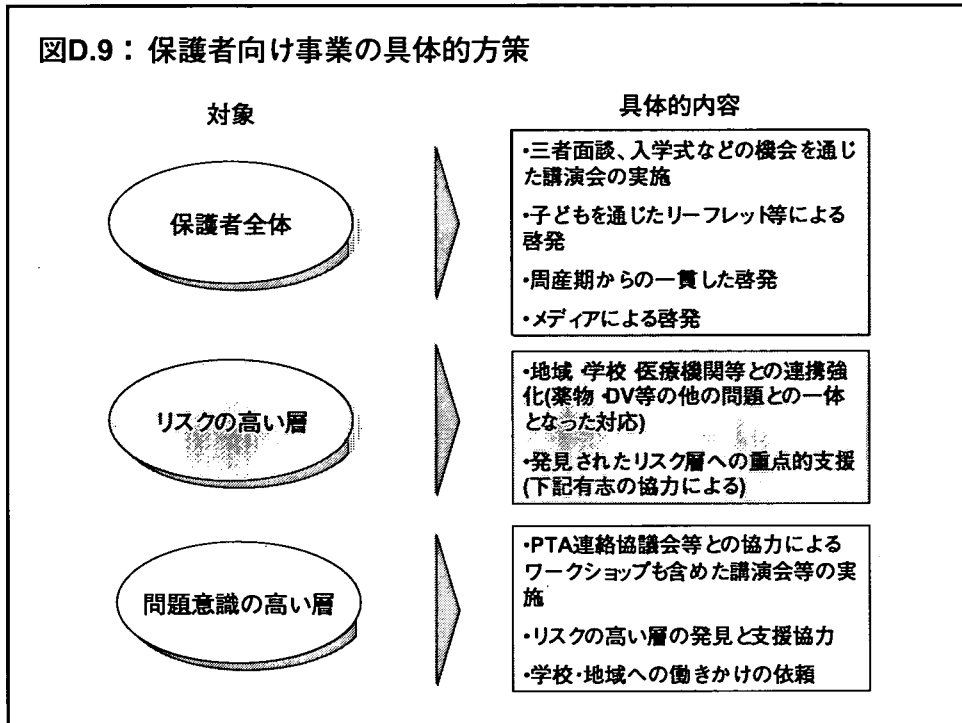
分科会② 娘に対する親の心構えや話し方についてのワークショップ

分科会③ 息子とどう向き合うかについてのグループワーク

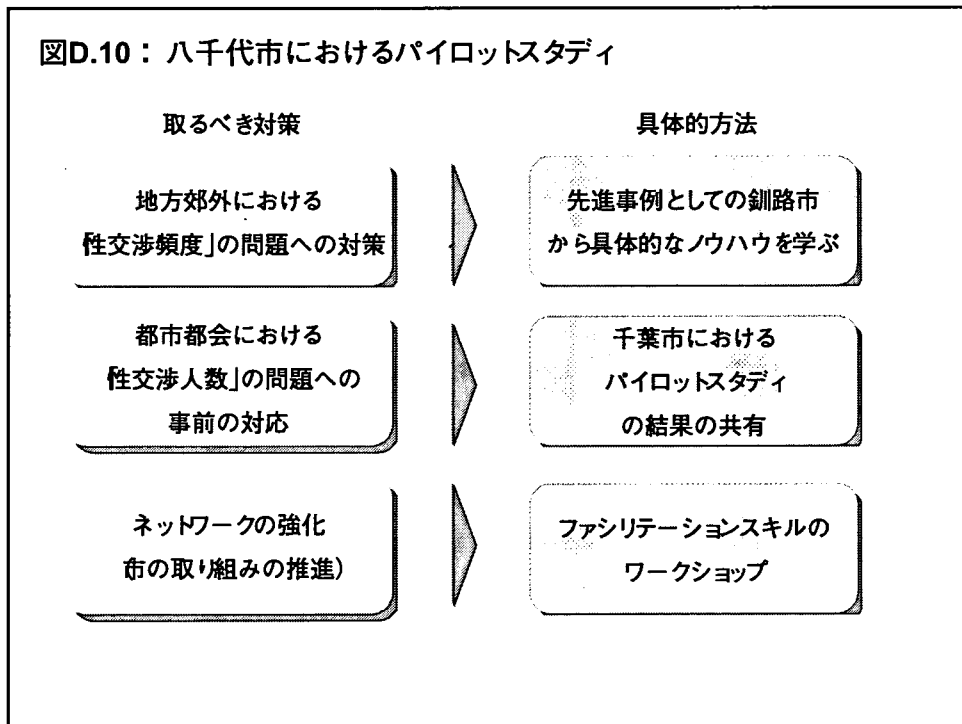


分科会④ 各家庭の違いを通じた、親としての10代の性との向き合い方の話し合い

図D.9：保護者向け事業の具体的方策



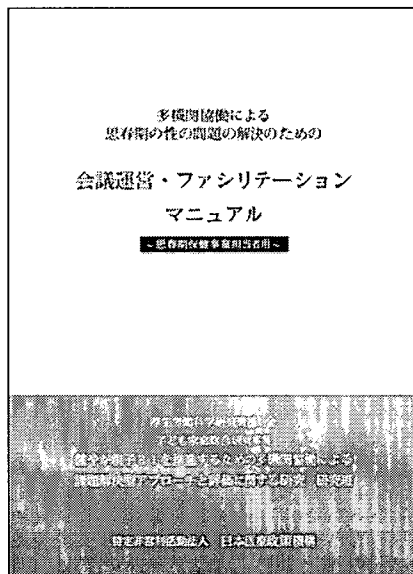
図D.10：八千代市におけるパイロットスタディ



図D.11：パイロットスタディから抽出された問題点

[Redacted]	
事前準備	どのような人・機関が存在するかわからない
	どのように会議等を設計すれば良いかわからない
	会議の準備が不十分だ
課題共有	会議の導入がうまくいかない
	メンバー間の対立が起こる
	課題の共有が進まない
施策検討	意見が出ない
	議論が進まない
体制決定	役割分担がうまく進まない
	上記の対策をしているのに会議の成果が出ない
施策実行モニター	決定した施策が実行されない
	実行したっきりになる (モニターされない)
	実行した結果クレームが来た
	PRの仕方がわからない、不十分である
	他の地域との情報共有が進まない

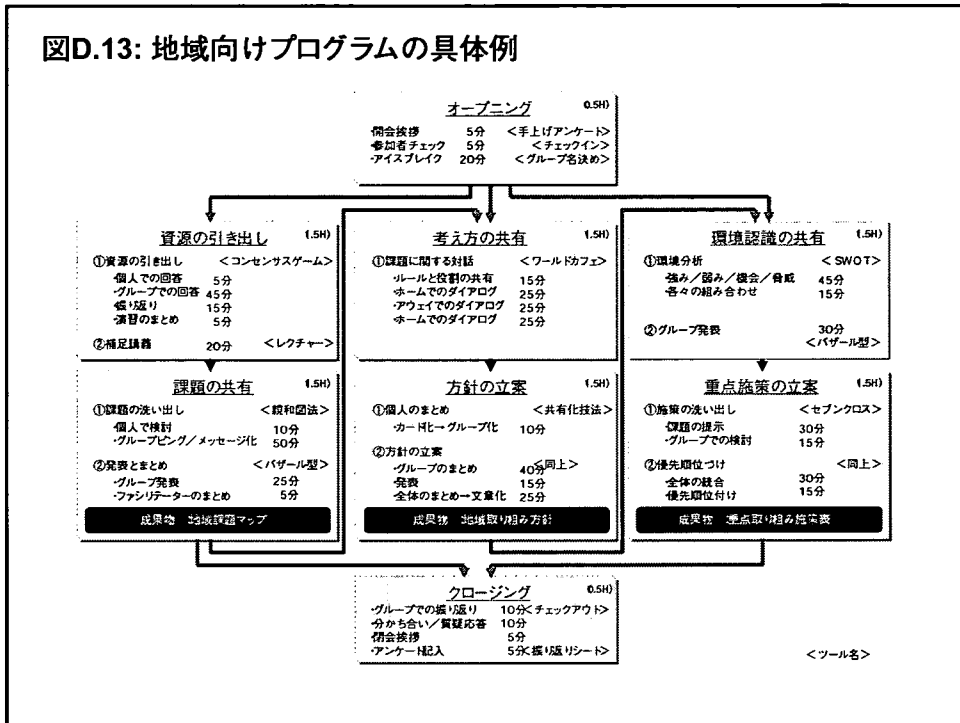
図D.12: マニュアル概要



目次

- はじめに
- 本マニュアルの使い方
- 多機関協働の支援ツールとしてのファシリテーション
- 会議当日までの準備
- 地域向けプログラムの具体例
- 会議後の連絡 調整
- おわりに

図D.13: 地域向けプログラムの具体例



図D.14: 八千代市におけるワークショップ

日時 2008年2月26日18:30~21:30

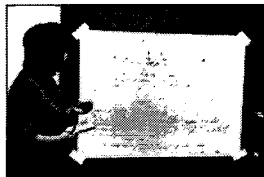
場所 八千代市保健センター

参加者 八千代市思春期保健ネット
ワークメンバー他



内容概略

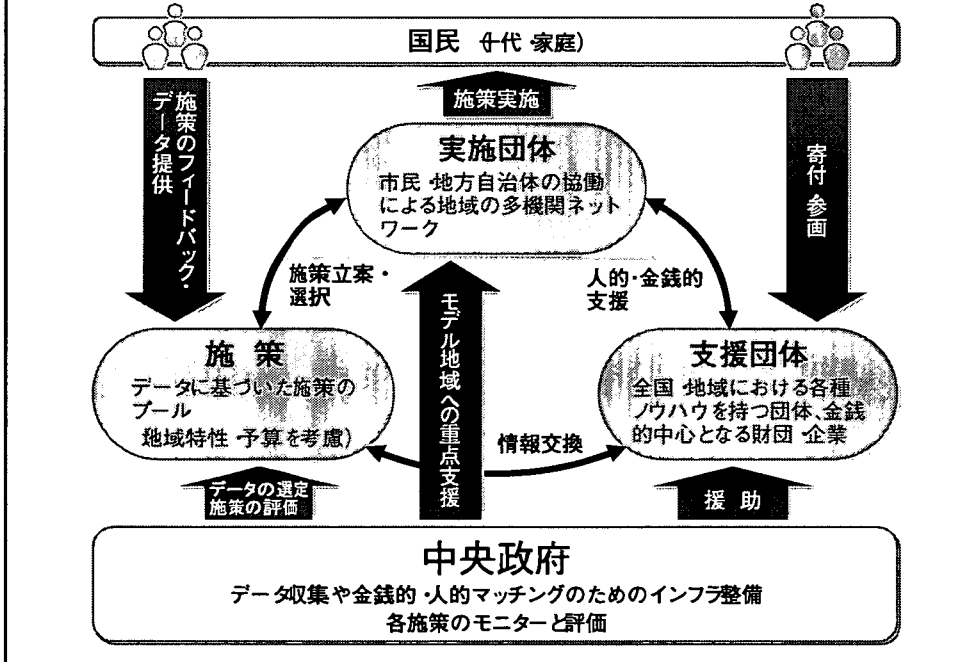
- ・ファシリテーションに関するレクチャー
- ・ワークショップ「中学生の性教育を推進するために関係者は何をすればいいか？」
- ・振り返り



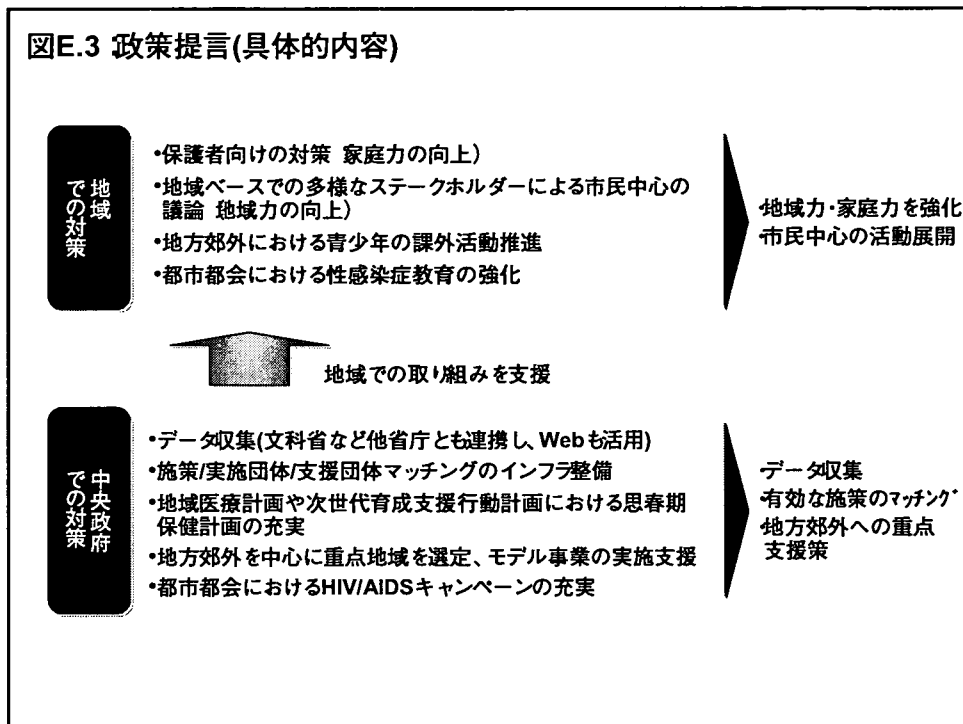
図E.1:データに基づいた、多機関協働による思春期事業の現状および限界

	データ収集 基礎データ決定 / データ収集	施策立案	施策実施
本研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> Web調査の有用性を確認 体系的な調査を実施 政策に直結するデータ分析 新たな要因を抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 釧路-千葉における、多機関によるデータに基づく立案の促進 施策立案支援ツールの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域NPOによる実施
明らかにした課題	<ul style="list-style-type: none"> データの不足 - 予算の不足 - 低い回答回収率 研究班間の連携不足 	<ul style="list-style-type: none"> 多機関のネットワークの不足 施策立案ノウハウの不足 成功例が共有されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における財源不足 人的資源の不足 施策実施ノウハウの不足 施策のモニターの必要性
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> Webも利用した、研究班横断的なデータ収集・分析 健やか親子21公式ホームページ内データベース、ICPSR SSJデータアーカイブなど利用) 	<ul style="list-style-type: none"> 思春期保健領域における、地域医療計画や次世代育成支援計画の更なる利用 支援ツールの普及・使用 自治体間での、成功例の共有 	<ul style="list-style-type: none"> NPOなど市民団体の活用 重点地域に絞った施策

図E.2 政策提言(概念図)



図E.3 政策提言(具体的内容)



図E.4:取り組みの10step

		中央政府	地域
Step 1	重点地域の決定(保健所・市町村保健センター単位で10程度全国のモデルとなるように選定)し、地域計画化(3ヶ年・5ヶ年)	✓	
Step 2	重点地域に思春期保健事業コーディネータ配置	✓	✓
Step 3	思春期保健事業コーディネータに対するファシリテーション等の講習	✓	✓
Step 4	コーディネータを中心に多機関で、当該地域における有効性が示唆された指標に関わる体系的なデータを収集	✓	✓
Step 5	収集されたデータをもとに、一般市民を含めた多機関で会議(少なくとも6回程度)を開催し、地域における対策を立案		✓
Step 6	全国のコーディネータが、立案された計画を持ち寄り、情報共有・再講習	✓	✓
Step 7	地域に持ち帰り、再検討の上、計画を実施		✓
Step 8	事業実施後のデータを経年でモニター	✓	✓
Step 9	中央・研究機関において各地域の取り組みをデータをもとに分析・フィードバックするとともに、ノウハウの蓄積・共有を行う	✓	✓
Step 10	コーディネータを中心として、全国に拡大する	✓	

☞ 10地域で実施するための費用は、概算で5年間で2億円程度

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
------	---------	---------------	-------	------	-----	-----	-----

なし

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
-------	---------	------	----	-----	-----

(今後発表予定)